

新ごみ処理施設に係る基本構想及び基本設計説明会の実施状況に関する概要報告

令和４年８月７日（日）に大里広域市町村圏組合主催により、（仮称）新熊谷衛生センターの基本構想及び基本設計についての説明会を開催いたしました。

その実施状況等に関する概要を下記のとおり報告いたします。

記

対象事業の名称	（仮称）新熊谷衛生センター整備事業
説明会の実施状況	別表１のとおり
説明会での主な質疑及び意見の概要	別表２のとおり

別表１ 説明会の実施状況

日時	令和４年８月７日(日) 14時～16時
場所	熊谷市立別府公民館 (熊谷市西別府 2252-1)
収容人員	44名（コロナ対策後）
住民等出席者数	41名
事業者側出席者の役職・氏名	大里広域市町村圏組合 小林熊谷市長（管理者） 三友事務局長 大屋事務局次長 清水建設準備課長 関口建設準備課副課長 熊谷市 高橋環境部長 萩野環境推進課長 金子環境推進課主幹 パシフィックコンサルタンツ株式会社 3名
周知方法	大里広域市町村圏組合ホームページでの告知 熊谷市別府自治会連合会区域に対し、説明会案内を回覧

別表2 8月7日 別府公民館説明会での主な質疑及び意見の概要

	質疑及び意見の概要	事業者側の回答
1	ごみ処理施設は迷惑施設であり、我々は50年間付き合ってきた。今後、さらに50年間付き合っていくメリットは何なのか。本来、ごみ処理施設は山里に新設するべきであり、近隣に小学校や公園があるようなところに作るべきではない。 別府地区に対するトレードオフとしての地域振興策はないのか。	【熊谷市】 熊谷市では、個別施設計画に基づき温水プールを備えた「(仮称)アクアピア2」の建設を計画しています。(仮称)アクアピア2は、新ごみ焼却施設から余熱供給を受ける予定であり、同施設の稼働と同時期に整備することが効率的であると考えています。整備位置については、現時点では未定ですが、余熱供給や施設の規模を考慮して、新ごみ焼却施設周辺で適切な場所を選定したいと考えています。(仮称)アクアピア2は、近隣小学校のプール授業の受入れを想定していることから、熊谷さくら運動公園のアクアピアのような25mプールを備えた施設を想定しています。また、老人福祉センター別府荘の機能の一部を受け入れることを想定しています。詳細な機能や施設の規模については、現時点では未定ですので、今後検討を進めていきたいと考えています。 別府沼公園も含めたこのエリアを、子供から高齢者まで、幅広い世代が子育てや健康増進のために利用できる拠点として捉え、別府地区、ひいては西部地区の振興・発展の核となる存在になるよう、地元の皆様の御理解・御協力をいただきながら、取り組んでいきたいと考えています。

2	(仮称)アクアピア2は2024年に検討、2025年スタートとのことだったが、まだまったく出来上がっていないというのはいかなものか。地域振興計画とごみ処理施設の検討は同時並行的に進んでいくべきではないのか。	【熊谷市】 ごみ焼却施設の誘致によるインセンティブについては、既存施設の新設の際にも検討を行いました。その結果、小学校の高機能化、別府沼公園の整備、街区の整備について取り組ませていただいた経緯がございます。今後について、(仮称)アクアピア2は新ごみ処理施設からの余熱利用を前提としておりますので、どちらが先ということではないことも御理解いただきたいと思います。 なお、川越市では、ごみ焼却施設の隣に民間事業者が運営する運動施設を併設しており、そういった他事例についても視察等を行っているところでございます。
3	検討委員会委員として、別府地区の方は入っていたのか。学識経験者と有識者だけなのか。別府地区には有識者はいないということなのか。	【組合】 検討委員会における学識経験者とは、立正大学教授、公益社団法人全国都市清掃会議技術部長、埼玉県環境科学国際センター担当部長です。構成市町のうち熊谷市については、熊谷市議会選出の組合議員及び熊谷市自治会連合会の副会長に委員となっておりまして、その他、市町の各職員で検討委員会を構成しております。
4	検討委員会の中で、地元の自治会から集約した意見を述べるという機会はあったのか。少なくとも私はそういった動きがあったということは認識していない。	【組合】 本来であれば地元のご意見もいただいた上で行うことが理想と考えますが、今回については地元の代表として自治会の方に御参加いただいたところでございます。
5	説明会の進め方として、すべての説明を終えてから質問しろとはいかなものか。	(意見として拝受)
6	検討委員会に参加していた人がどれだけ意識をもっていたのかを聞きたい。	【組合】 委員の方々には地元代表としての意識をもって検討委員会に御参加いただいたと認識しています。

7	検討委員会はどれくらいの検討期間を設けたのか。	【組合】 令和２年度に５回、令和３年度に３回の計８回開催しています。
8	検討委員会の期間中、委員である自治会長には地元の意見を吸い上げるように依頼をしなかったのか。深谷清掃センターには既に温水プールがあるので、今回新たに(仮称)アクアピア２を作るといっても何もメリットは感じない。深谷市に迫いつただけである。委員会の段取りも悪い。前回の環境影響評価調査計画書の説明会は平日の夜だった。地元負担のかかる話であるにも関わらず、失礼ではないか。	【組合】 地元自治会代表として検討委員会に御参加いただいていると認識しておりますので、御理解いただきたいと思います。
9	別府に新ごみ処理施設ができることは決定事項のようだが、今後の建て替えになった際に、また別府に作られるのか。	【組合】 さらに次の新ごみ処理施設の検討を行う段階では、社会情勢を踏まえての検討になりますので、現時点では明言は致しかねます。
10	今回、別府が候補地になった経緯については開示されているのでしょうか。	【組合】 候補地の選定経緯については、組合のHPに掲載しておりますごみ処理施設整備基本構想等の本編に記載しております。また、検討委員会の資料も公表しております。 建設候補地については、構成市町により検討を行って参りました。その結果、新たな用地の取得が難しい中で、既存の公有地として候補地に選定されたのが別府地区と榎合地区です。ただし、組合としても２地区に新ごみ処理施設を建設することが適性であるのかについての検証は行っております。検証の結果、２箇所とも建設が可能であるとの結果が得られており、検討委員会でも答申をいただいた経緯がございます。その答申を受けて、組合としては別府地区を建設候補地といたしました。

11	以前自治会長をやっていた際は、今回の話は全く聞いていなかった。現施設も気がついたら出来上がっていた。余熱利用施設を作るということだが、これから若い人が別府地区に集まってくれるような施設を作らすべきであると考えている。	【熊谷市】 （仮称）アクアピア2の詳細については、こういった施設が欲しいということがあれば、御意見をお伺いしたいと考えております。
12	熊谷市は医療過疎地域であるため、地元の人の健康をどのように見守ってくるのか。例えば煙突を高くするといったことは想定していないのか。	【組合】 現施設では、排出するガスは基準値以下になるように処理を行っています。測定結果のお示し方法については検討していきます。
13	環境基準値はどこで測るものなのか。	【組合】 現施設では、煙突の排出口で測定を行っています。直近、令和4年5月のダイオキシン類の測定結果を申し上げますと、基準値である0.1 ng-TEQ/m³Nに対して0.0026~0.027 ng-TEQ/m³Nとなっています。 なお、新施設ではダイオキシン類の環境基準値を0.01 ng-TEQ/m³Nとする予定です。
14	熊谷衛生センター第一工場と第二工場の長寿命化工事実施状況について、詳細の説明をお願いしたい。	【組合】 第二工場は組合圏内のごみ処理施設の中で一番処理能力が大きいのですが、老朽化が進行していたことから初めに長寿命化工事を実施しました。ただし、工事後10~15年目できなり使えなくなる、といったわけではございませんので、想定寿命よりもさらに2年間追加で動かす予定であります。
15	余熱利用量の計算はどのようにするのか。	【組合】 発電量を減らして温水を作るということではございませんので御安心ください。試算結果では(仮称)アクアピア2へ十分な余熱の供給が可能です。
16	煙突の高さについて、健康の安全を考慮して煙突の高い施設を作ることとはできないのか。	【組合】 現施設の煙突の高さは59 mとなっておりまして、新施設の煙突の高さについては、環境影響評価の結果を踏まえて決定する予定です。

17	検討委員会について、1回目と2回目ではアクセスが良いという理由から別府地区に決まっていた。我々の意見としては、迷惑施設はアクセスの悪い場所に作るべきである。	(意見として拝受)
18	処理方式の候補である4方式のうち、助燃材を使わないのはどの方式か。	【組合】 ストーカ式と流動床式です。
19	助燃材3%とは何か。脱水汚泥は持ち込んで欲しくない。ストーカ式と流動床式は助燃材を使わないのということであれば、このどちらかを採用していただきたい。東の方で処理してくれればよいのではないか。	【熊谷市】 脱水汚泥は、ごみと同じように炉で処理します。熊谷市では、3つのし尿処理施設があり、これらを第一水光園敷地内に新設予定の施設に集約する予定です。新しい施設では、汚泥等を脱水後、処理水を下水道に流します。その脱水汚泥を助燃材としてリサイクルするということです。
20	必要な面積について、15,000 m²とのことだが、私が確認したところによると、別府の面積は23,000m²であるのに対して、江南は10,000 m²ちょっと、深谷は8,500 m²である。そこはどうか。	【組合】 深谷の8,500 m²というのは現深谷清掃センターの敷地面積になります。新ごみ処理施設については、現施設を含む都市計画上の深谷衛生処理場の中で、2.2haの場所に新設する予定であることから、必要な面積は確保されていると考えております。
21	江南の跡地利用についてはどのように考えているのか。	【組合】 江南の跡地利用は現時点では未定となっております。
22	余剰電力は地域還元するべきではないか。	【組合】 東京電力など電気事業者との契約等の関係上、地元へ直接還元することは難しいと考えております。

23	焼却施設を作ることによるメリットはないのか。例えば、市民税をゼロにするといったことはできないのか。	(意見として拝受)
24	熊谷市は5週間に1回不燃物等の収集日となっているのに対して、深谷市は毎週木曜日に捨てることが可能である。さらに、深谷市は可燃ごみを月・火・水・金の4回も捨てられる。なぜ深谷市と熊谷市でこんなにも違うのか。同じようにするべきではないか。収集頻度が少ないと、貯めておけないので分別を無視して関係なしに捨てる人が出てくる。	【熊谷市】 熊谷市の目標は、ごみを減らすことにあり、収集頻度を増やすことは簡単に捨てやすいということにもなりますので、環境への配慮という観点から収集頻度を増やすということとは考えておりません。
25	次回はいつなのか。今日の説明会の内容で決定なのか。	【組合】 環境影響評価の結果を踏まえた、環境影響評価準備書の地元説明会を令和5年の年末頃を実施する予定です。 そのため、本日のご説明内容で決定ということではございません。

以上